

「荒尾市地域公共交通網形成計画(素案)」に関するご意見の内容及び対応方針

	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方
1	<p>P. 39</p> <p>バス利用者は23万人、補助金は5,300万円に過ぎない。文化センターは2万人足らずで補助金は1億円を超えている。バス路線があることで地価が高く固定資産税も高く、働く人も多く、車がない人も出かけて多くの方が経済的に社会的に貢献している。</p> <p>P. 38 に書かれている利用者の不満点を解消するには補助金を上げてこそ解決するものです。文化センターの工事費と同じような補助でバスの更新やバス停の改造をすべきです。</p> <p>バスは高齢化社会の中、交通弱者への健康の維持、国保費の削減など、波及効果は大きい。バスへの補助金を上げて、利便性の拡大、路線の拡大を図ってほしい。</p>	<p>本市の路線バス・乗合タクシーの利用者数は年間約23万人となっており、毎年減少傾向が継続しております。一方、運行に係る欠損補助額につきましては、近年増加傾向にありますことから、限られた財源の適正配分に努めているところです。</p> <p>また、近年、全国的に人手不足の状況が続いており、特にバス業界におきましては、離職や採用難による運転士不足が深刻な問題となっております。公共交通に対する不満点として「運行本数が少ないこと」が多くなっておりますが、運転士の確保が難しいことから、運行本数を増やすことが困難な現状もございます。</p> <p>しかしながら、ご指摘のとおり、交通弱者対策や地域活性化を図る上でも、路線バスの必要性は高いと認識しておりますので、今後とも、様々なご意見を踏まえながら、移動実態やニーズに合った持続可能な公共交通体系の構築に努めて参ります。</p>